

板橋区立中央図書館建設に係る基本設計（概要）

1 計画概要

1. 事業概要

常盤台一丁目に位置する現・板橋区立中央図書館は、建物の老朽化・バリアフリーへの対応・新しい図書館サービスへの対応等のため、平成28年3月の「板橋区立中央図書館基本構想」および平成29年3月の「板橋区立中央図書館基本計画」により、常盤台四丁目の板橋区平和公園内東側に新築・移転することが決定しました。

また、現在は板橋区本町にある「いたばしポロニー子ども絵本館」を併設します。

2. 計画地概要

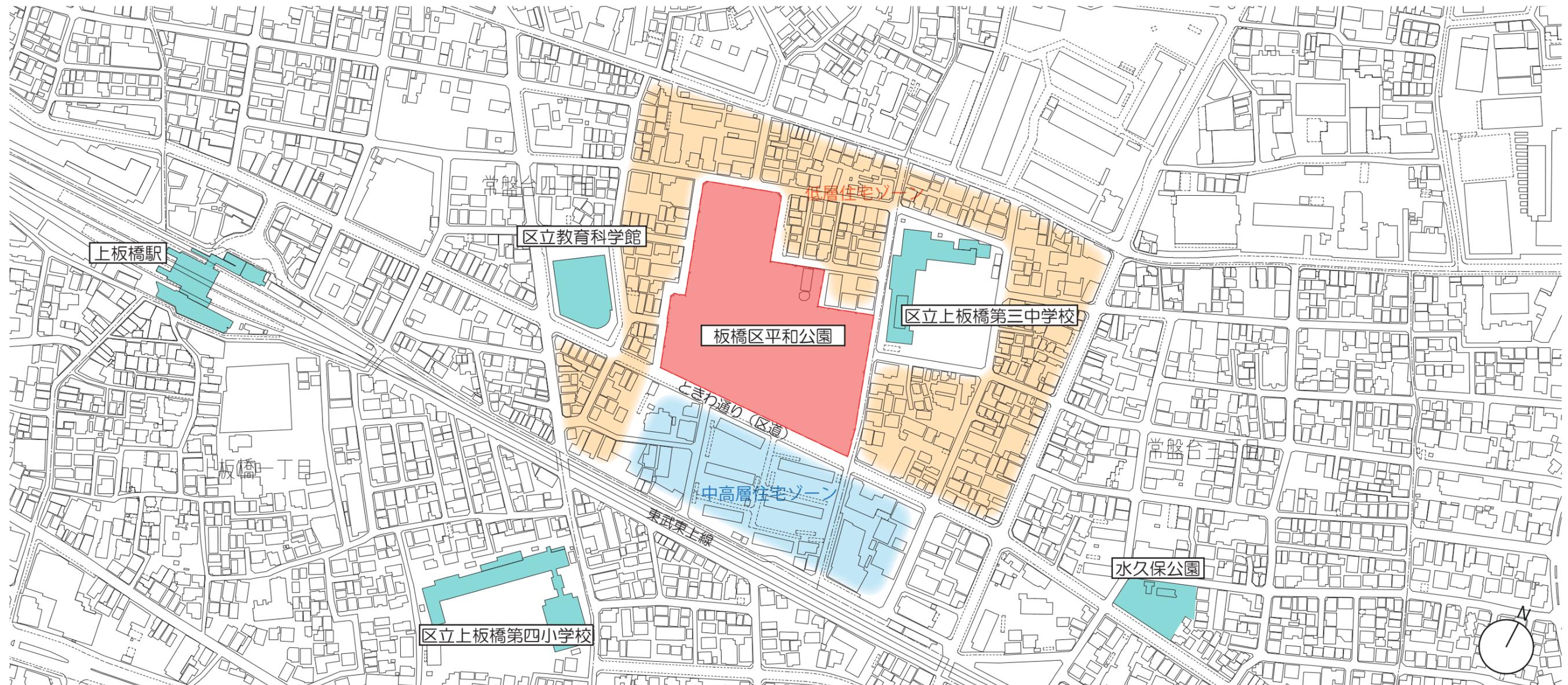
事業計画地である板橋区平和公園はときわ通りをはじめ、一部北東側を除き敷地4面が接道しています。公園内には正面のけやき並木をはじめとした10mを超える樹木が多く生育しており、公衆便所・倉庫、備蓄倉庫の2つの既存建物の他、広場や「へいわの池」、「平和の灯（ひ）」のモニュメント等が設置されています。日中は乳幼児の親子連れや地域住民のサークル活動、夕方は近隣中学校生徒等が多く利用されており、4月の「常盤台桜まつり」、5月の「こどもわくわくフェスタ」等のイベントも開催されています。

3. 周辺状況

東武東上線板橋駅から徒歩5分にあり、道路を挟んだ南側は集合住宅、西・北・東側は戸建て住宅が面しています。また、西側には区立教育科学館、北西側には区立上板橋第三中学校、東武東上線の反対側には区立上板橋第四小学校と、教育施設も多く存在します。

■敷地概要

所在地	東京都板橋区常盤台四丁目3	法定建蔽率	60%
	板橋区平和公園	法定容積率	200%
敷地面積	公園全体：18,589.01㎡	前面道路	南側 11.0m（ときわ通り）
用途地域	第一種中高層住居専用地域	高度地区	22m/ 第2種高度地区
防火地域	準防火地域		
日影規制	3-2 時間 / 測定面 4m		



周辺案内図 S=1:3,000

2 施設計画概要

1. 計画敷地について

建築基準法における一敷地一建物の原則より、図書館と既存公衆便所・倉庫、既存備蓄倉庫は、それぞれを別敷地として敷地境界線の設定が必要となります。既存建物（公衆便所・倉庫、備蓄倉庫）が既存不適格とならないよう、延焼ラインや日影等を考慮し敷地形状を想定しています。

建築基準法上の建蔽率・容積率は、計画敷地（6,712.37 m²）をもとに算出します。都市公園法上の建蔽率制限は公園全体面積（18,589.01 m²）をもとに算出します。

2. 敷地条件等

公園全体面積(都市公園法)	18,589.01 m ²		
敷地面積(建築基準法)	6,712.37 m ² (想定)		
公園面積	11,876.64 m ²		
法定建蔽率	60%		
法定容積率	200%		
法定建蔽率(都市公園法)	10%		
既存建物	1	2	計
	公衆便所・倉庫	備蓄倉庫	
建築面積	184.95 m ²	9.27 m ²	194.22 m ²
延床面積	184.95 m ²	9.27 m ²	194.22 m ²
建物高さ	4.60m	2.21m	-
計画通知	昭和 61 年 9月 25 日 第 22 号	平成 28 年 1月 13 日 第 H27-23 号	-
景観計画適合通知(既存建物 2)：平成 27 年 9 月 11 日 27 板都通第 5 号の 2			
既存不適格調書等：平成 28 年 1 月 6 日提出済			

3. 施設計画概要

用途	図書館
階数	地上 3 階地下 1 階塔屋 1 階
建築面積	約 1,500 m ²
延床面積(室面積)	5,280 m ²
延床面積(建築基準法)	約 5,500 m ²
延床面積 (建築基準法・容積対象)	約 4,778 m ²
建物高さ	約 18.6m (GL=1FL-100 想定)
建蔽率(建築基準法)	約 22.96% < 60%
容積率	約 71%
建蔽率(都市公園法)	約 9.11% < 10% (既存建物 1・2 含む)



4 平面計画 2階

■インデックスエリアイメージ案

- ・テーマ配架、面出し、ショーケース等を組み合わせ可能な展示書架
- ・テーマにそって動かしながら作る半固定、可動の組み合わせでスペースを作る



■青少年(ヤングアダルト)エリアイメージ

- ・少し奥まった空間に設置することで若者も居やすい囲まれた安心感をつくれます。



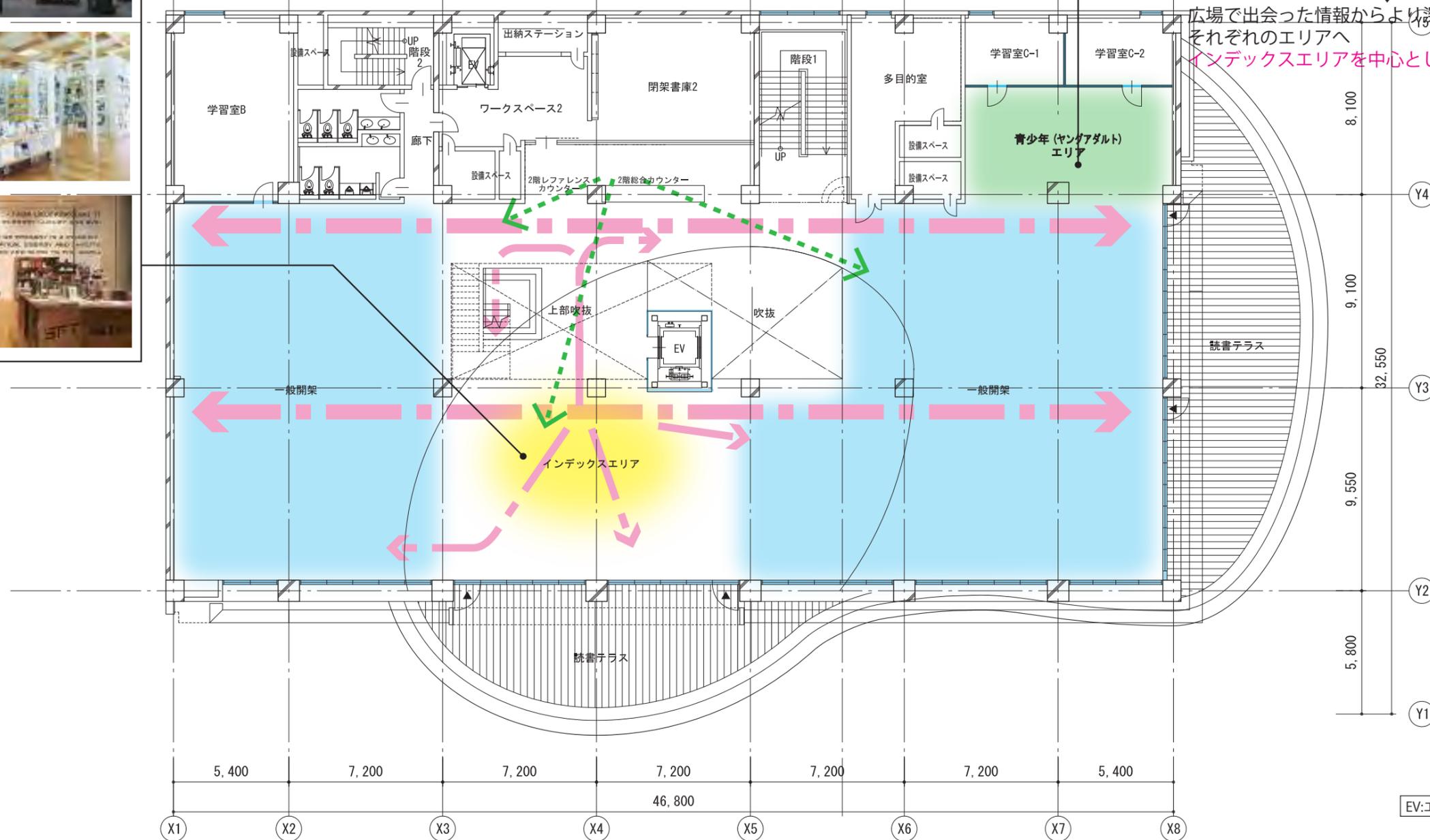
2F 板橋区立中央図書館のインデックス

■館内の情報を集めたインデックス(見出し)の広場

情報の例

- ・日本十進分類からオススメの
- ・テーマ配架⇒ビジネス、健康、医療、地域活動支援
- ・人気の展示⇒新着図書・話題書
- ・板橋区の情報にまつわる本
- ・3F 地域資料への誘い
- ・雑誌、新聞等「今」の情報

広場で出会った情報からより深く専門的な知識を求め
それぞれのエリアへ
インデックスエリアを中心とした明快な動線計画



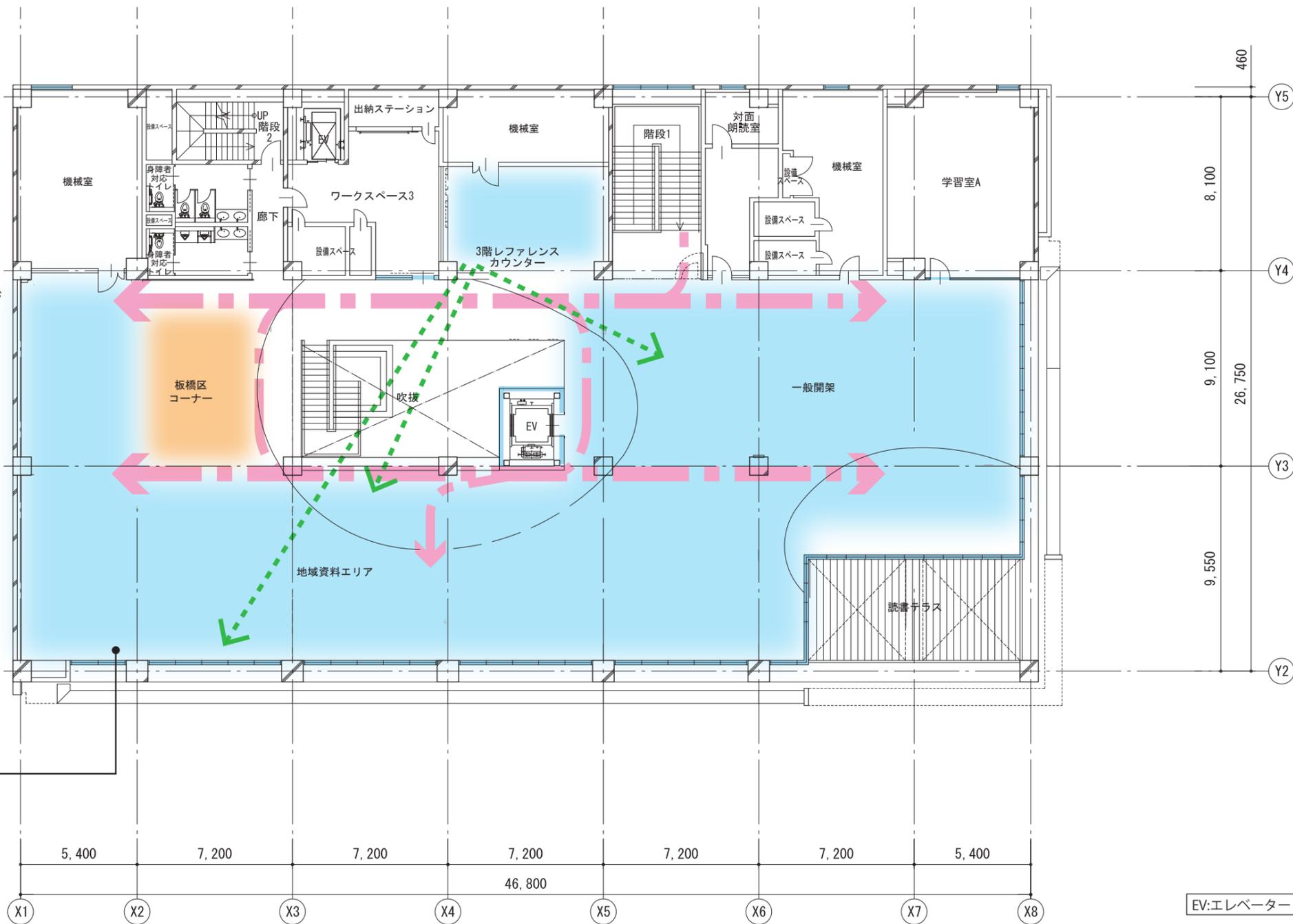
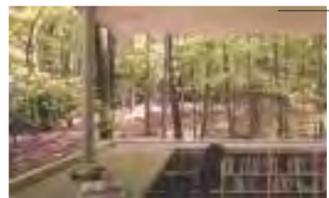
EV:エレベーター

※図面上水色ラインはガラスの計画を想定

3F 板橋区民の書斎

- ・トプライト下の吹抜を回遊する動線を設定し、各エリアへと誘います。
- ・様々な点在する閲覧席でゆったりと書籍に向かえる、書斎のようなフロアとします。

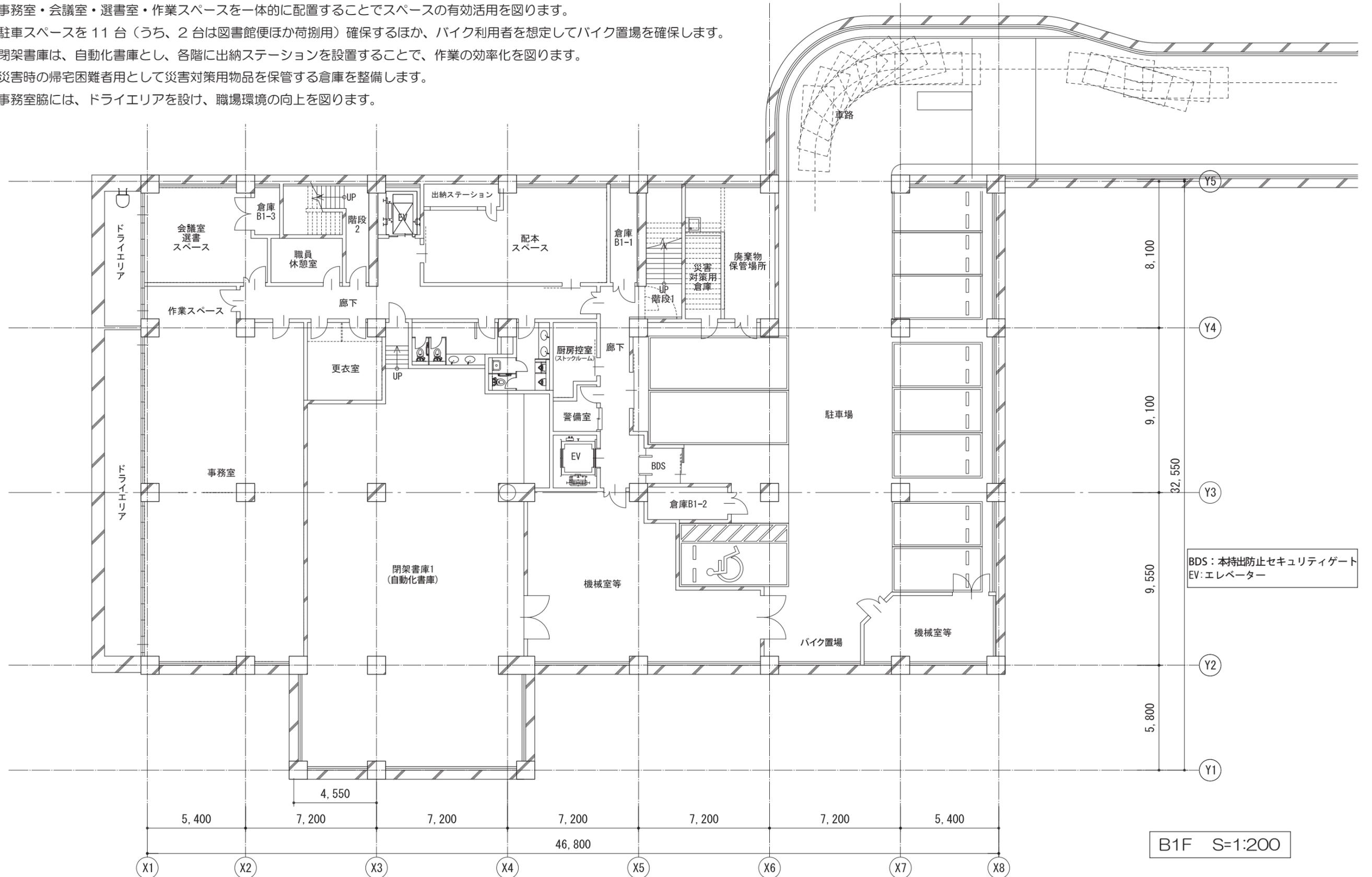
■閲覧席にはより落ち着いた書斎・研究室のようなシートを設けるイメージ



6 平面計画 B1階

B1階 事務機能・閉架書庫・配本スペースを集約したバックスペース

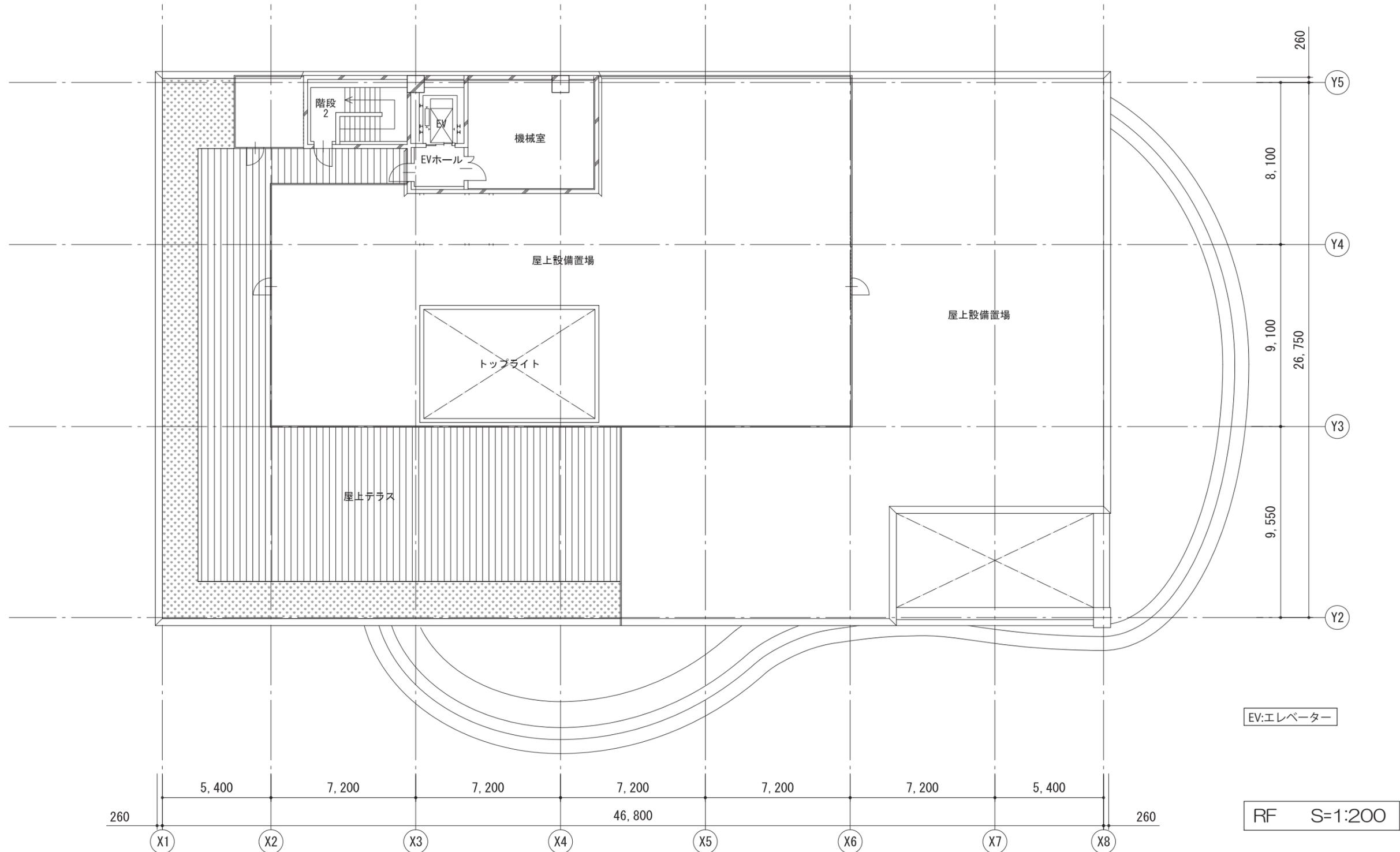
- ①事務室・会議室・選書室・作業スペースを一体的に配置することでスペースの有効活用を図ります。
- ②駐車スペースを11台（うち、2台は図書館便ほか荷捌用）確保するほか、バイク利用者を想定してバイク置場を確保します。
- ③閉架書庫は、自動化書庫とし、各階に出納ステーションを設置することで、作業の効率化を図ります。
- ④災害時の帰宅困難者用として災害対策用物品を保管する倉庫を整備します。
- ⑤事務室脇には、ドライエリアを設け、職場環境の向上を図ります。



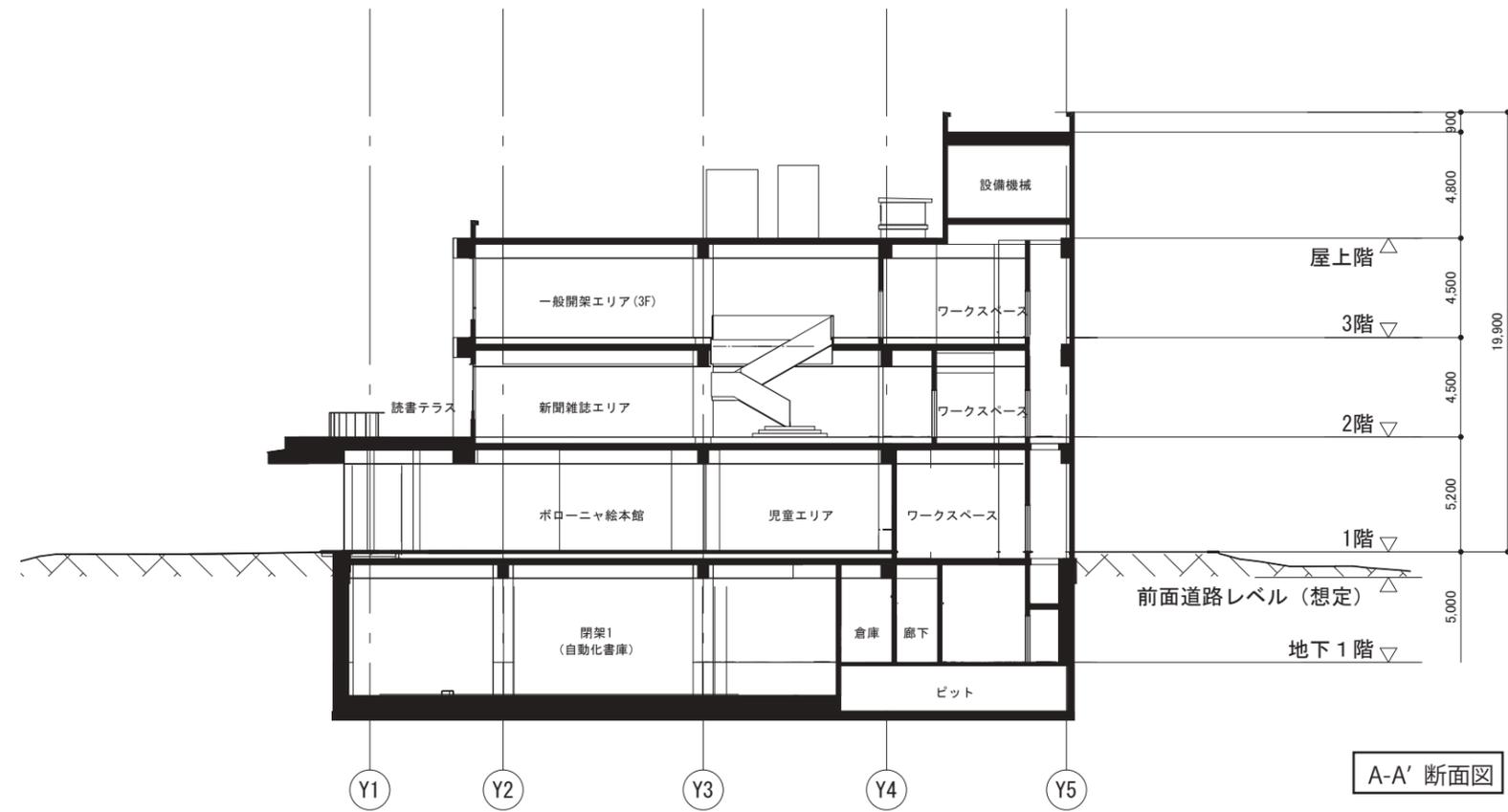
7 平面計画 R階

R階 設備機械置場

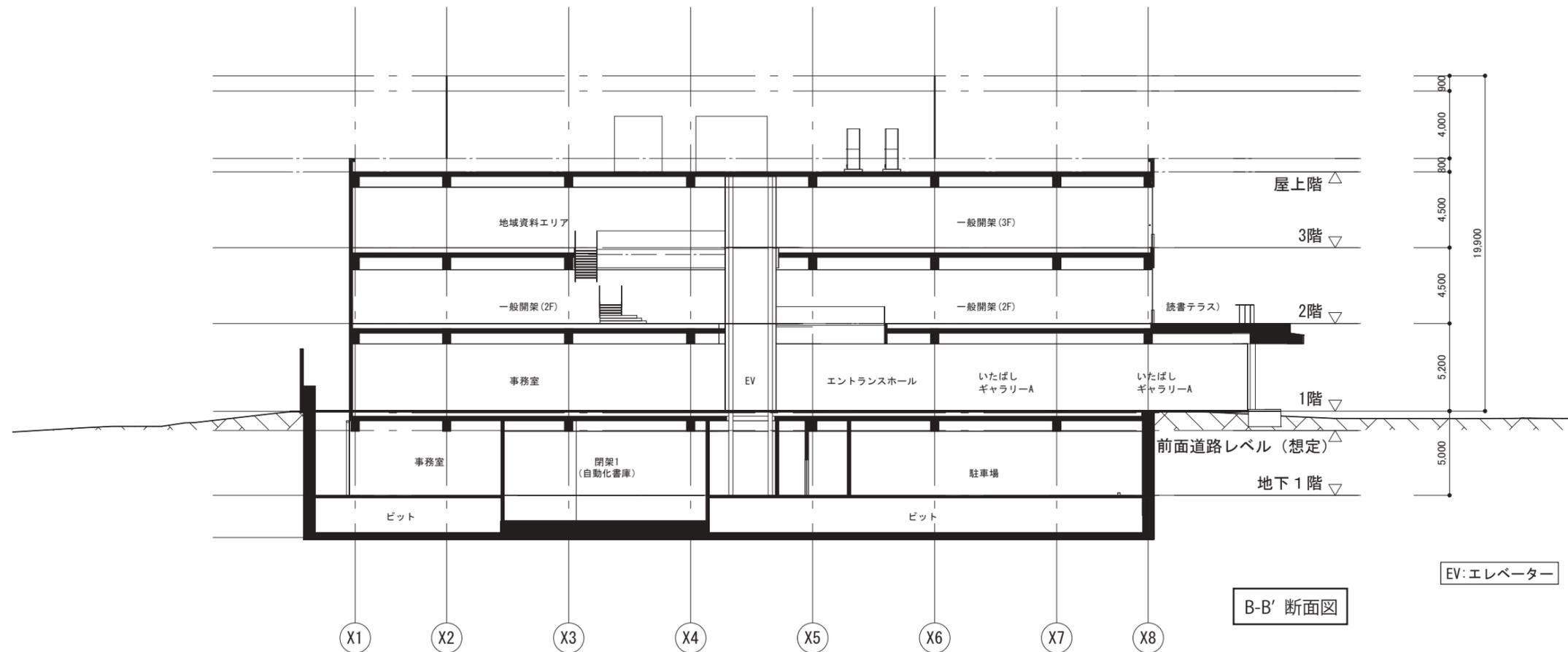
- ①大型の機器は目隠しルーバーによって隠し、ファサードに影響を与えないよう配慮します。
- ②屋上緑化を施すことで屋根面への日射負荷を和らげつつ、環境配慮を行います。
- ③太陽光パネルを設置し、省エネルギーに役立てます。
- ④屋上テラスも設け、隣接する区立教育科学館のイベント時利用等検討します。



8 断面計画



A-A' 断面図



EV:エレベーター

B-B' 断面図

9 立面計画

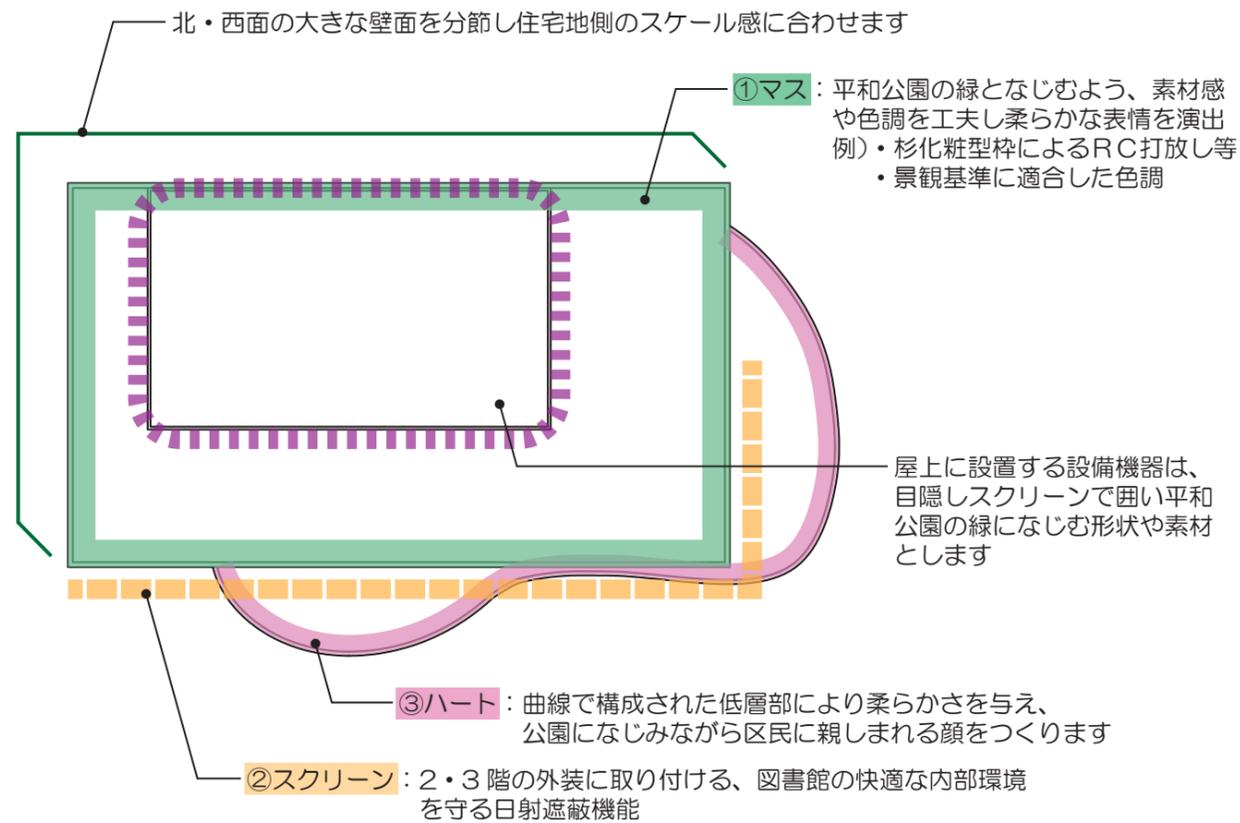
1. コンセプト 板橋の魅力“緑と文化”を象徴する図書館 = 公園一体型図書館

公園との繋がりをもちつつ、快適な閲覧空間を確保する「こころをはぐくむ図書館」を象徴する外観デザインとします。



- 建物を構成する3つの基本要素
- ①マス : RC3層の建物を構成するメインボリューム
 - ②スクリーン : 日射を遮蔽する外皮
 - ③ハート : 曲線で構成されるガラスのボリューム

■構成ダイアグラム



スクリーン(横ルーバー)のイメージ

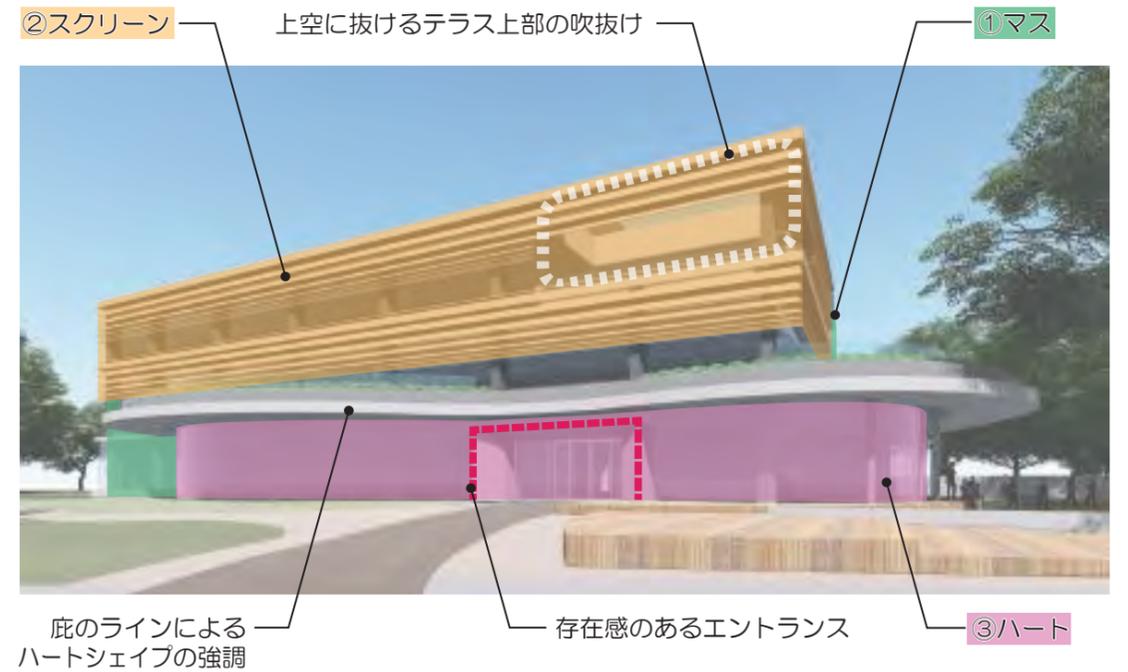


スクリーン(縦ルーバー)のイメージ

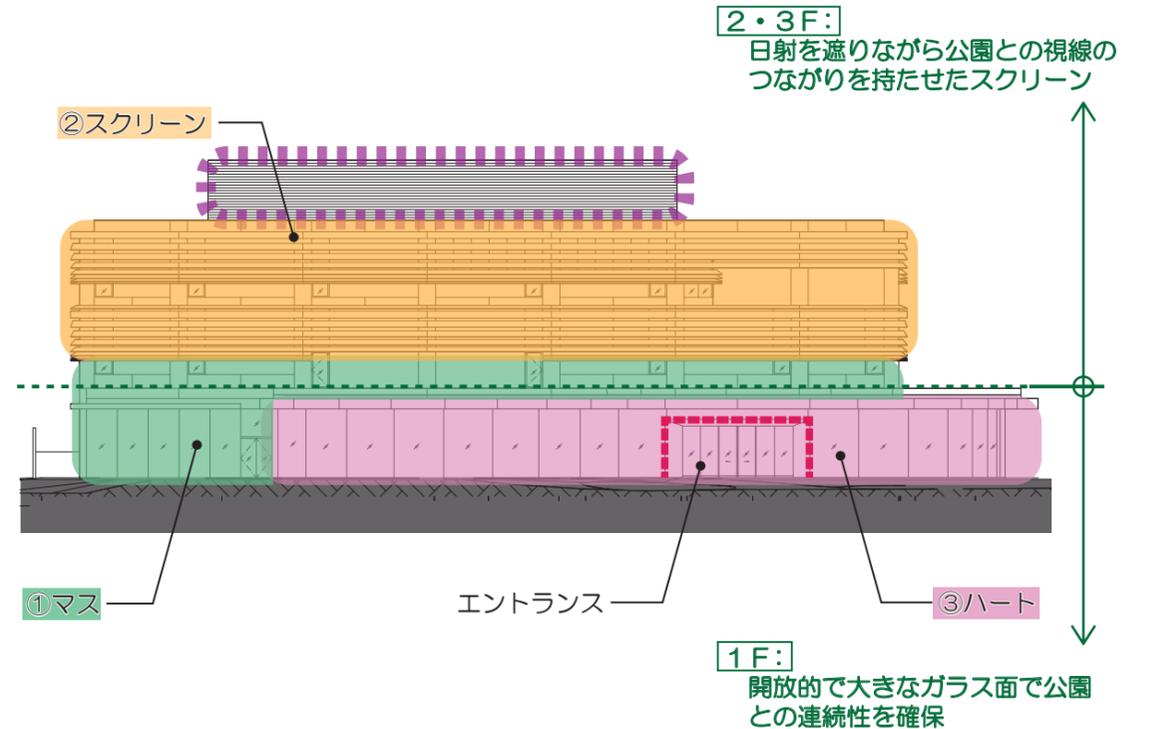


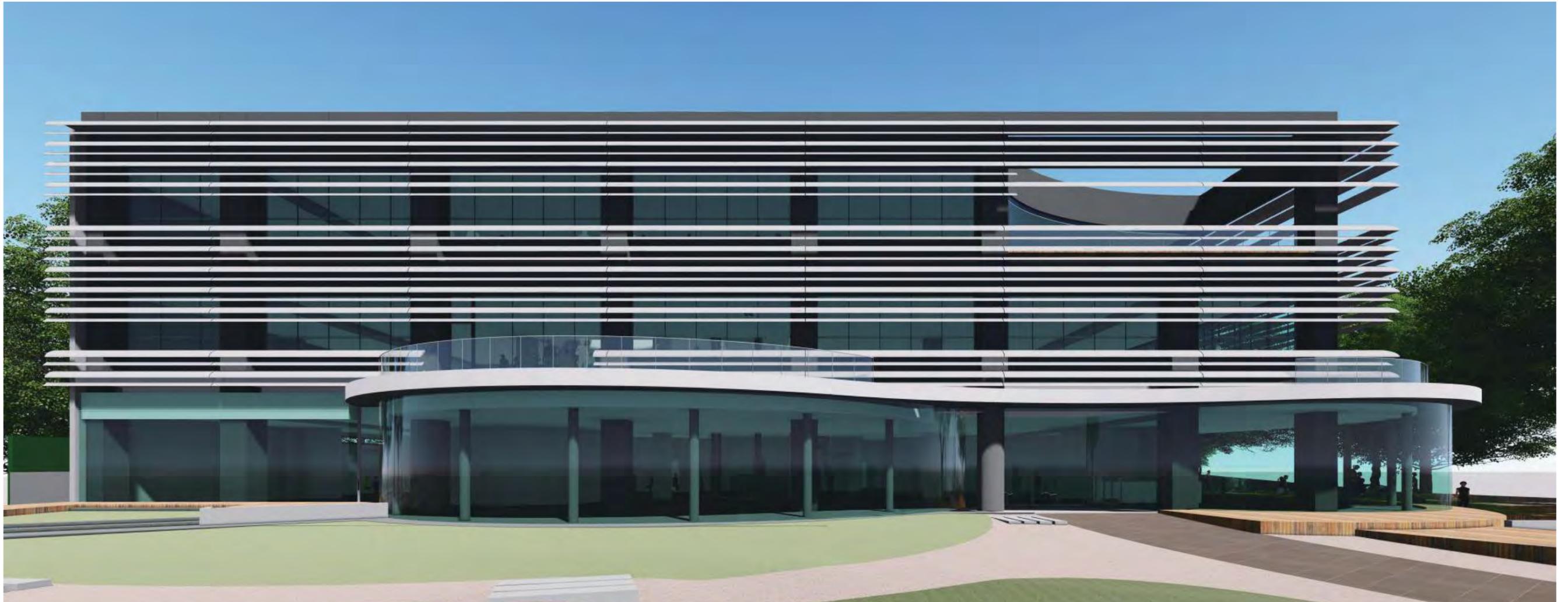
壁面を分節し圧迫感を低減する構成のイメージ

■ヴォリューム構成イメージ(南西面パース)



■立面構成の考え方





西側外観イメージ

11 外構計画概要

1) 公園整備計画概要

1. 図書館と一体となる公園整備の基本計画

【植栽】

- 既存の樹木をなるべく保存し、現状の公園利用を妨げないよう敷地内で可能な限り移植を行う。
- 老木、病木もしくは移植先の確保が難しく伐採せざるを得ない樹木の代わりには新植樹木を植える。
- 新植樹木はサクラ、ヤマボウシ、サルスベリ、ロウバイなどの四季を感じさせる花木や、ドングリ拾いやカブトムシやクワガタの集まるクヌギ、コナラ、カンなど公園の活動を誘発する樹木とする。

【施設】

- 駐輪場（180台）は敷地東側の緑の中に配置し、ウォーキングコースとの交差は最小限とする。
- へいわの灯、へいわの池、平和の像、イチョウ並木など平和公園のシンボルとなる施設は保存する。

【広場】

- 公園西側の広さのある広場やお花見エリアは保存する。
- 図書館西側には芝生広場を整備し、南側には小イベント等も可能な広場や憩える空間を整備し、図書館来館者及び公園利用者の活動の幅が広がる居場所をつくる。

【動線】

- 現在の歩行動線はできる限り保存し、部分的に再整備を行う。
- 外周にウォーキングコース（自主管理歩道）を配置し、車両との動線は立体交差として動線が重ならないようにする。
- 既存の出入口13カ所の位置は変更せず、図書館東側に駐輪場を設置するため、東側の南北2箇所の出入口からの動線は自転車と歩行者の動線明示をすると共に歩道幅についても拡張整備する。



2. ランドスケープ計画平面図 S=1:400

